

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

379-243

事務事業名	飯田広域シルバー人材センター運営事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	介護高齢課		包含する細々目	1	3	1	4	10	6	17,500
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり											
施策	35 高齢者福祉の推進											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画条例等		高齢者等の雇用の安定等に関する法律				
		事業期間	S62	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	飯田広域シルバー人材センター	会員数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			920	1000		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
飯田広域シルバー人材センター事業が適正に運営される。高齢者の就労・生きがいの場の確保	受注件数	18目標	5000	最終目標	5000	
		18実績		19目標		↑
		23目標	5000	23実績		最終目標達成年度
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	高齢者が地域社会の中で自らの経験と知識・技術をいかし積極的に社会参画していくための就労機会の拡大と生きがいづくりを図るため、シルバー人材センターに補助金を支出する。国の補助金と同額を加入市町村で均等割と人口割で按分し負担する。18年度より上・南人口増加分の人口割、66千円が負担率変更で増加する。	合併後は負担金の人口割が増加する 遠山シルバー人材センターを廃止し、新たに飯田広域シルバーの会員に加入して頂いた。南信濃自治振興センターに支部を置いた。50万円(旧遠山シルバーの受託収入の約2割)の補助金を追加した。 18年度の実績	会員数 人	920
	補助金の支出	19年度計画	会員数 人	920

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他	6,142	6,142
一般財源	11,358	11,358	
事業費計(A)	17,500	17,500	
人件費	正規職員所要時間	18年度 50	19年度 50
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	179	179
	トータルコストA+B	17,679	17,679

特定財源内訳や補足事項	国補助1/2(直接シルバーへ補助) その他財源は他町村負担分
-------------	-----------------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	安心していきいき暮らせる	いきいき暮らしている高齢者の割合	現状値	68.7	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	70
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
元気な高齢者が今まで培ってきた知識や技術を生かして社会参画をするために、就労機会の拡大と社会奉仕活動の推進を図り高齢者の生きがいに繋げる。	厳しい社会情勢の中でも、会員数は現状を保ち受注件数も伸びてきており、高齢者の就業の場として重要な役割を担っている。	会員からも利用者からも好評である

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) <input type="checkbox"/> 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) <input type="checkbox"/> 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 現状維持
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	